

部活動新聞

2019年11月15日創刊 月刊 毎月不定期発行

秋季
特集号
1頁建

2019年11月15日〔金曜日〕

発行元 生徒指導部
加東市木梨1356-1
〒673-1461
TEL:0795-42-2055
発行人 生徒会
【無料】

第72回全日本バレーボール高等学校選手権

男子バレーボール部

惜しくも決勝戦で敗れる

11月10日（日）、「第72回全日本高等学校選手権大会」の決勝戦が、県立総合体育館にて行われました。通称「春の高校バレー」と呼ばれる本大会は、昨年度同様、市立尼崎高校との対戦であった。

本大会は、11月2日から県予選が行われ、初の決勝戦に駒を進めた。戦は龍野高校と（25対12・25対21）とストレート勝ちで、2回戦に駒を進めた。2回戦の相手、神戸学院大学付属高校は、豊岡総合高校、夢野台高校、長田高校をそれぞれストレートで勝ち、駒を進めたチームであったが、（25対18・25対21）でストレートで下し、10日（日）の決勝戦に駒を進めた。

一方、市立尼崎高校は、東播工業高校、神戸弘陵高校、姫路工業高校をこちらも全てストレートで勝利し、駒を進めた強豪チーム。夏の総合体育大会では、市立尼崎高校に決勝戦で（17対25・27対25）であと一歩のところまで涙をのんだ悔しい思いをしているだけに、今大会では、何とかでも勝利を掴みたい一心となつた。

決勝戦当日、本校から50人あまりの応援生徒が駆けつけ、会場が埋め尽くされた。12時00分、試合開始のホイッスルが鳴ると、両チームとも気合の入った歓声が鳴り響き、会場は熱気の渦に包まれた。

市立尼崎は、試合序盤から、高さのあるブロックと攻撃で終始社を苦しめた。特にサイドからの迫力あるアタックがチームを牽引し、速さのあるクイックも社のディフェンスを崩すのに効果的であった。また、乱れたレシーブからも正確なトスを上げるトスワーカーも、社を苦しめた。一方、社は

岡本匠人（2年）・河原光能（2年）の時間差攻撃や、谷口季（3年）のライトやバックからのスパイクでなんとか相手のブロックを崩し、止められたボールもブロックフォロで何度もつないで得点につなげた。特に第1セット（21対25）と第3セット（21対25）は終盤まで粘りをみせたが、要所でアタックミスなどがでてしまい、残念ながらセットを奪うことはできず、0-3（21対25・14対25・21対25）で、夏の雪辱を果たすことができなかった。なお、この決勝戦は、11月23日（土）26時15分〜28時07分にKTV（関西テレビ放送）で、佐々木太一（元日本代表）をゲストに向かえ、放送される予定である。この大会に応援に行けなかった生徒は、是非、番組を観戦し、興奮を一緒に味わっていただきたい。また、応援に行つた生徒は、映っている可能性もあるので、是非、記念に録画しておくことをお勧めする。

男女バドミントン部 近畿大会出場!!

赤松岳人（2年）・岩本和也（2年）・藤本翔悟（2年）・中岡 想（1年）・石田優歩（1年）

9月5日から豊岡市総合体育館で行われた「兵庫県新人バドミントン選手権大会（個人戦）」において、男子ダブルスに赤松・岩本ペアがベスト4、藤本・中岡ペアが決勝戦で村野工業高校に敗れたものの、準優勝で近畿大会の出場権を獲得した。男子シングルスにおいて、藤本翔悟は、決勝戦

写真引用「兵庫県高校バレーボールHPから」
※優秀選手：清水晃太（2年）山田夏輝（2年）



で村野工業高校に敗れたが、準優勝で近畿大会出場。赤松岳人、岩本和也も、決定戦で見事勝利し、近畿大会出場を果たした。女子シングルスは、石田優歩が、同じく決定戦で勝利し、出場権を得た。なお、近畿大会は、滋賀県「皇子が丘公園（男子）」「ウカルちゃんアリーナ（女子）」で開催。



決意表明をする藤本翔悟さん

生徒会からのお願い♡

みなさん、もう11月中旬になり、朝晩すっかり寒くなりました。

生徒会活動も文化祭や体育祭など怒涛のように仕事をこなし、無事に終了することができました。これも生徒みなさんの支えがあつてのことだと感謝しております。

さて、今回、「部活動新聞」なるモノを発行することになりました。社高校と言え、兵庫県下で唯一体育科が存在する学校です。その特色を活かし、部活動の活動報告を行っていきたいと思います。そこで、みなさんにお願ひ！新聞を発行するには記事になるネタが必要です。運動部や文化部だけにこだわらず、こんなネタを載せて欲しい！など、なんでも結構です。是非、生徒会にお知らせください。取材や写真撮影をさせていただき、情報を発信していきたいと思ひます。

なお、不定期での発行になりますので、ご了承ください。ただ、ご了承ください。

それでは、情報をお待ちしております。